

会議録

会 議 名 称	令和 8 年度第 1 回加古川市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	令和 8 年 6 月 9 日（火）午前 10 時 00 分から午前 11 時 15 分まで
開 催 場 所	加古川市役所北館 4 階 大会議室
出 席 者	< 委員 > 中井玲子会長、花田眞理子副会長、坂田重隆委員、藤原武彦委員、藤本淑子委員、竹裏由佳委員、森下徹委員、馬場敏郎委員 < 事務局 > 田渕環境部長、福浦次長、山本参事、福山環境政策課長、藤本脱炭素化推進担当課長、岩坂副課長、馬田循環型社会推進係長、山田島崎環境第 1 課長、石澤副課長、小山環境施設課長、岡田副課長
会 議 次 第	1 開会 2 議題 （1）審議事項 市民アンケート（案）について 3 その他
配 布 資 料	資料 1 市民アンケート依頼文（案）・設問（案）・主な変更点 参考資料 ① 加古川市指定ごみ袋に関する臨時措置の実施について（チラシ） 参考資料 ② 加古川市廃棄物の処理及び清掃に関する条例（抜粋） 参考資料 ③ 加古川市廃棄物減量等推進審議会規則
傍 聴 者 の 数	0 人

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
(事務局)	1 開会
	2 環境部長あいさつ
	3 委員自己紹介 ＜委員出席状況＞ 審議会委員 9 名中 8 名出席
	4 審議事項 市民アンケート（案）について ＜事務局説明＞ 資料 1 市民アンケート依頼文（案）・設問（案）・主な変更点を基に概要説明
(事務局)	＜事務局説明＞ 資料 1 市民アンケート依頼文（案）・設問（案）・主な変更点を基に概要説明
(会長)	前回審議いただいた各委員の意見を丁寧に反映していただいているように感じる。前回と今回の内容を含め全体を通して、事務局の説明について質問や意見等があれば伺いたい。
(委員)	前回指摘した内容について修正していただき、ありがたいと思う。一方で、改めて見直す中で、このアンケートの設問に回答するために、どの程度の時間を要するのかという点が気になった。ごみに関する知識や関心がある方であれば、5分から 10 分程度で回答できると思うが、今回の対象者は無作為に選ばれるため、ごみに関心がない方も含まれる。アンケート本体と関連資料を分けていただいたことで分かりやすくなっているが、資料を確認しながら回答する場合、1 時間とまではいかないものの、20 分から 30 分程度はかかるのではないかと考える。その中で、市民の方がどの程度回答していただけるのかという点について疑問を感じた。一般廃棄物処理基本計画の 40 ページに令和 4 年 2 月 9 日に実施されたアンケートの調査結果が掲載されている。回答期限を 2 月 28 日として、2,500 人の市民に無作為で依頼した結果、1,181 件の回答があり、半数近くの回答率となっている。これは高い回答率であると感じたが、次ページの回答者の内訳を見ると、60 歳以上の方が半数以上を占めている。実際にごみを多く排出する世代としては、40 代、50 代の家庭も多いと考えるが、その世代から十分な回答を得られるのかという点が懸念される。高齢の方は比較的時間をかけて回答できる一方で、仕事や子育て等で忙しい世代が、資料を確認しながら回答する時間を確保できるのかという課題がある。せっかく資料を作成しても、回答者が高齢者に偏り、その意見だけが反映されることになれば、本来把握したい市民全体の意見を十分に反映できない可能性がある。特に 40 代、50 代など、日常生活の中でごみを多く

	排出する世代からも意見を得るために、アンケートの回答方法や回収方法について、どのような工夫をされているのか、また今後どのように取り組まれる予定なのか伺いたい。
(事務局)	対象者については、無作為に 3,000 件を抽出しているが、各地区や各年代の世帯主が均等になるよう配慮して選定している。回答にあたっては、忙しい方もいると考えるが、アンケートについては、できるだけ柔らかい表現を用いるとともに、設問数も 30 問以内に抑えている。そのため、環境への関心が高い方であれば、15 分程度で回答できるものと考えている。また、今回のアンケートは、回答を通じて市の取組等について知っていただくことも目的としており、依頼文と設問内容を関連させている。分からない内容については、依頼文を確認することで知識を深めながら回答していただけるようにしており、仮に 30 分程度の時間を要したとしても、回答者にとって有意義な時間になるのではないかと考えている。さらに、設問については回答しやすい内容から順に配置しているため、回答率の向上にもつながるものと考えている。
(事務局)	補足すると、この件については前回の会議でも、設問数が多くなることで回答率の低下につながる可能性があることを説明している。しかしながら、内容を丁寧に説明しようとする、資料の枚数が増えてしまうという難しさもある。回答へのハードルが高いと感じる方もいるかもしれないが、設問については内容を精査し、取捨選択を行った上で、できるだけ 30 問以内となるよう調整している。また、若い世代からの回答についても課題として認識しているが、今回はオンラインで回答できる方法も用意しているため、特に若い世代には手軽に回答していただけるものと考えている。
(会長)	啓発活動の一環としての側面もあるということで、今回のアンケートをきっかけに、市民の方にごみについて改めて考えていただく機会になればよいと思う。また、分析について懸念があるとの意見があったが、問 1 で年齢を確認する設問を設けているため、全体としての傾向だけでなく、年代ごとにどのような意見や傾向が見られるのかを把握することも可能であると考え。その点についても工夫して分析していただければと思う。委員におかれては、他市の取組状況やこれまでの知見等があれば、ご意見を伺いたい。
(委員)	ただいまの意見については、非常に悩ましいところであると感じている。まず、説明資料とアンケートを分けている点については、回答していただく過程で啓発につなげたり、改めて考えるきっかけにさせていただくという意図があるため、このような方法も一つのやり方であると考え。また、先ほどの話にもあったように、前回のアンケートでは非常に高い回収率となっている。一般的なアンケート

	では3割程度回収できれば十分という場合もあるため、市民の関心の高さが表れているのではないかと感じる。なお、前回実施したアンケートについて、設問数やページ数がどの程度であったか把握されているか伺いたい。(※事務局：後に回答) その上で、資料1－2のアンケート案を拝見し、少し気になる点がある。設問数を30問以内に整理していただいたことはありがたいが、回答する際に考える必要があるものや、別の資料を参照しなければならないものについては、回答者の負担となり、回答意欲の低下につながる可能性があるため、できるだけ避けた方がよいのではないかと思う。例えば、問17の「分別が徹底されていない理由として考えられること」については、自分自身が分別できていない理由であれば回答しやすいが、一般的に分別が進まない理由を考えると、少し難しい設問であるように感じる。また、問18については、法律の認知度を確認すること自体は、市民の意識を把握する上で意味のある設問であると思う。一方で、法律を知っていることと、実際に適切な行動をしていることは必ずしも一致しないため、その点は分けて考える必要があるのではないか。 今回のアンケートの目的は、今後の分別収集等の取組を検討するための基礎資料とすることであると考えため、その観点からは、回答者自身の行動や考えを尋ねる設問の方が、より答えやすく、意見を把握しやすいのではないかと思う。 例えば、問20については「日頃からどのような取組を行っているか」という内容で、選択肢から自身の行動を選ぶ形式となっており、回答しやすい設問であると感じる。問21についても同様である。また、問23の選択肢4番にある「関連参照」については、別資料を確認してもらうよりも、アンケート内の選択肢として具体的に記載した方が回答しやすいのではないか。例えば、「収集や選別のためのコストがかかる」などの内容を選択肢として示すことで、回答者の負担軽減につながると思う。なお、確認であるが、再商品化まで市が実施しているのか伺いたい。
(事務局)	今は未実施なのでお答えすることができない。
(委員)	先ほどの関連参照については、例えば「収集や選別にコストがかかる」という程度の表現にしておけば、別資料を確認するという作業が不要となり、回答途中で負担を感じたり、回答を断念したりすることを防げるのではないかと思う。また、問24のプラスチック容器の洗浄については、「面倒である」という意見は理解できる。一方で、多くの自治体では、汚れが残っているプラスチックは燃やすごみとして扱っている場合が多い。汚れの判断基準は難しいところではあるが、今回の記載は非常に丁寧である一方、回答者が迷う可能性もあるため、※印の補足については必ずしも必要ではないのではないかと感じた。食品等を取り除くことは再資源化のために必要なことであるが、実際にプラスチック回収を実施している

	自治体では、「汚れているものは燃やすごみ」としているケースも多いため、その点で混乱が生じないような表現にした方がよいのではないかと思います。また、問 24 の選択肢 3 についても、できるだけ関連資料を参照せずに回答できるよう、「プラスチック以外の複数の素材でできているプラスチック製品の分別」など、選択肢だけを読んで内容が理解できる表現にした方がよいのではないかと。さらに、依頼文 3 ページ下部のコストに関する記載について、「週 1 回の収集であれば 1 世帯当たり約 2,300 円」と読める形で改行され、その後に「年に」と続いているため、一瞬、週 1 回の収集で年間ではなく 1 回当たり 2,300 円かかるようにも受け取れる。実際には 1 世帯当たり年間約 2,300 円という意味であるため、「年間」という表現を前に持ってくるなど、誤解を招かない工夫をしていただければと思う。細かい点ばかりで恐縮であるが、これは市民の方にできるだけ回答していただきたいという思いからの意見である。回答しやすい形式に工夫することで、先ほど他の委員からあった回答率や回答者の偏りへの懸念についても、一定程度解消できるのではないかと思います。また、オンライン回答時の表示については確認が必要であるが、紙面を見る限り、設問と選択肢のフォントや文字の大きさが同じになっている。設問部分を少し大きくするだけでも読みやすさが向上すると思う。加えて、現在は UD フォント（ユニバーサルデザインフォント）も普及しているため、そうした見やすいフォントの活用も検討してはどうか。本筋とは少し離れた細かな指摘となり恐縮であるが、少しでも市民の方に分かりやすく、回答しやすいアンケートにするための意見として受け止めていただきたい。
(事務局)	細かい点までご指摘いただきありがとうございます。ご意見については、可能な限り反映していきたいと考えている。また、途中で質問のあった前回のアンケートの設問数について確認したところ、前回は全体で 35 問であり、そのうちごみに関する設問は 26 問であった。残りの設問については、浄化槽など、今回のアンケートでは取り扱っていない内容であった。そのため、今回のアンケートについては、全体として前回よりも設問数を減らした構成としている。
(委員)	先ほどの「答えていただきやすさ」という点について、意見を述べたい。あくまで個人的な印象であり、皆様とは異なる見方もあるかもしれないが、アンケートが手元に届いた際に、「ごみ減量化・資源化アンケートのご協力について」というタイトルを見ると、少し身構えてしまう方もいるのではないかと思います。また、「これは行政が考えるべき問題ではないか」と感じてしまう方もいる可能性がある。そのような中で依頼文を読み進めると、下部に「市民の皆様の率直なご意見をお聞かせいただきたい」と記載されている。例えば、「あなたの身近なごみについて率直なご意見をお聞かせください」といった表現を先に出し、その下に「ごみ減量化・資源化アンケート」と記載することで、自分自身が日々排出しているごみに関する問題であるということが伝わり、より回答しやすくなるのではない

	かと思う。文言についてはさらに整理が必要であると思うが、アンケートの目的そのものがタイトルに前面に出ることで、回答への心理的なハードルを上げてしまう要素の一つになるのではないかと感じた。また、関連資料についても意見を述べたい。「アンケートに合わせてお読みください」としている資料については、内容として非常に勉強になるものであり、手元に置いておきたいと思える資料である。一方で、アンケート回答時に2つの資料を照らし合わせながら進めることは、一般的なアンケートと比較すると回答者にとって負担になる可能性もある。解説を確認しながら設問に回答できる形式の方が、回答しやすいという面もあるのではないかとと思う。ただし、その場合は、解説内容によって回答が誘導される可能性も高まるため、どちらの方法が適切かについては、一度議論する価値があるのではないかとと思う。
(会長)	貴重なご意見ありがとうございます。非常に重要な問題であるからこそ、表現や伝え方については悩ましい部分もあると感じている。事務局から何か意見や説明はあるか。私自身、今のご意見を伺い、冒頭部分について「あなたの」という表現を用いることで、他人事ではなく自分自身の問題として考えていただくというメッセージになる点は、非常によい視点であると感じた。
(事務局)	1点目のアンケートタイトルの表現については、ご意見を参考にしながら、改めて検討したいと考えている。できるだけ市民の方が取り組みやすく、回答への入口に入りやすいような表現となるよう工夫していきたい。2点目については、説明資料を分けずに設問の中に説明を盛り込む方法も考えられるが、どちらの方法がより適切であるかについては、事務局としても検討しているところである。
(事務局)	先ほど委員からご意見があったように、設問の後に解説を付ける形式にすると、回答を誘導してしまう可能性があるという点は一つの課題であると考えている。昨年度の審議会において、さまざまなご意見を頂き、それを踏まえて修正を重ねた結果、アンケートのボリュームが非常に大きくなってしまったという経緯がある。その中で、解説資料とアンケートを分ける方法について検討したところである。2つに分けることのデメリットとしては、先ほどご指摘いただいたように、回答者がアンケートと解説資料を行き来しながら確認する必要があり、負担になる可能性がある点である。一方で、メリットとしては、分からない部分についてのみ解説資料を確認し、内容を理解した上で回答していただくことができる点である。既に理解している内容については、解説を読み飛ばして回答することも可能になると考えている。また、先ほど申し上げたとおり、オンライン回答の場合は、画面上には基本的に設問のみが表示されるため、分からない内容があれば別途解説資料を確認していただく形になる。そのため、オンライン回答においても、解説資料とアンケートを分けることによるメリットはあるのではないかと考え

	ている。分けることによるデメリットについては十分認識しているが、これらの点を踏まえ、今回については解説資料とアンケートを分ける形としたものである。
(委員)	後半の質問については、私自身もどちらの方法がよいのか迷うところであるため、事務局において十分検討された上での判断であれば、その考え方を尊重したい。
(委員)	この会場を見ると、男性の割合が多いように感じるが、男性の方は普段ごみ出しをされているのか伺いたい。－（会場の男性に挙手を求める）－ 現在の会場でも、ごみ出しを担っている方は少数であるように感じる。前回のアンケート結果では男女別の記載はなかったが、今回のアンケートに性別の項目を設けるかどうかについては検討が必要であると思う。無作為にアンケートを送付した場合、実際に男性が回答しているのか、女性が回答しているのか、また普段ごみ出しを行っている方が回答しているのかという点は、結果を分析する上で重要な視点になるのではないと思う。併せて確認であるが、オンライン回答については、スマートフォンでの回答を想定しているのか、それともパソコンからの回答も可能なのか伺いたい。
(事務局)	基本的に二次元コードからの読み込みとなるのでスマートフォンからの回答を想定している。
(委員)	解説資料がある場合、回答者は確認することになると思う。その結果、もともと何となく理解していた内容であっても、解説を読むことで「知っている」という回答を選択してしまう可能性があるのではないかと感じる。例えば、二次元コードからアンケートに回答しようとした際に、「詳しくはこちら」といった案内があると、真剣に回答しようとする方ほど、アンケートと解説資料の両方を確認すると思う。ホームページからアンケートにアクセスでき、パソコン等でも回答可能であれば、別画面で解説を確認しながら回答することもできるのではないかと感じた。しかし、参考資料を確認しながら回答する形式にすると、いわば「答えが用意された状態」で回答することになり、回答者が本来持っている認識や意識を把握するというアンケート本来の目的とは異なる結果になる可能性もあるのではないかと感じた。また、オンライン回答についてであるが、現在、ギフトカード 5,000 円分の申込みなどで二次元コードを利用する機会も増えている。一方で、私の周囲では、スマートフォンを所有していても二次元コードの読み取り方法が分からない高齢者の方も多く、「分かりにくい」という声も聞かれる。便利な仕組みである一方、利用する方によっては負担や不便を感じる場合もあるのではないかとと思う。

(会長)	そのため、今回のアンケートについては、対象者への資料送付だけでなく、市の広報等を通じて取組の背景や内容を広く周知する方法も検討してはどうかと思う。アンケート自体については、解説資料をあえて付けず、回答者が現在持っている率直な印象や認識をそのまま回答できる形式の方が、市民の意識を把握するという観点では適しているのではないかと感じた。 ご意見ありがとうございました。先ほど出た性別に関する設問については、「男性」「女性」「その他」「回答したくない」といった選択肢になるのではないかと思います。私自身、現在マンションの理事長をしているが、ごみ出しに関する問題があった。燃やすごみの日に、居住者が出した袋が収集されなかったことがあった。理由は袋の中に、さまざまなものが混在していたためであった。管理人と確認したところ、機械類なども入っている状態であった。その後、排出者が分かり、なぜそのような状況になったのか確認したところ、普段は奥さんがごみ出しを担当しているが、その日は奥さんが不在で、旦那さんがまとめてごみを出したものの、分別方法について十分理解されていなかったということであった。決して悪意があったわけではないという結果であった。このような経験からも、ごみに関する意識が高い方や関心がある方だけを対象に考えるのではなく、必ずしも関心が高くない方でも取り組めるような施策を進めていくことが重要であると感じている。その意味でも、先ほど提案されたような設問を追加することで、より正確な分析ができ、今後の取組検討にもつながるのではないかと思います。 アンケートと解説資料の関係については、IT スキル等も含め、私自身では十分判断できない部分もあるため、事務局において現時点での考えや意見があれば伺いたい。
(事務局)	パソコンでの回答と並行して実施した方が利用しやすいのではないかと、また、広報で周知した上で、その内容を確認しながら回答できるようにしてはどうか、といったご意見を頂いた。広報については、紙面の制約があることや、特集記事の内容があらかじめ決まっていることから、今回のアンケートのために特集を組むという方法は難しい状況である。その代わりとして、アンケート送付時に依頼文を添付し、取組の背景等についてお知らせする形としている。また、デジタルスキルや回答方法に関する技術的な部分については、担当者においてもさまざまな方法を検討しているが、実施上の課題もあり、現時点では今回の方法が適切ではないかという判断に至っている。
(委員)	プラスチック問題については、非常に難しい課題であると認識しているが、内容については専門的な知見をお持ちの会長、副会長からも評価を頂いており、事務局においてよく取りまとめていると感じている。一方で、私自身が最も気になっているのは、せっかくアンケートを実施するのであれば、いかに幅広

	い世代から多くの回答を頂くかという点である。前回のアンケート結果について、60 歳以上の方の回答が多かったという話を伺い、少し意外に感じたところである。今回のアンケートではオンライン回答を導入することであるが、市においてもさまざまなアンケートを実施していると思う。近年、オンラインによる回答は実際に増えているのか、また、今回のアンケートにおいて回答数の増加や若い世代からの回答につながる可能性があるのか、その辺りについて事務局の見解があれば伺いたい。
(事務局)	市においても各課でさまざまなアンケートを実施しており、すべてを把握しているわけではないが、現在はオンライン回答との併用、またはオンラインのみで実施しているものが多いのではないかなと思う。あくまで私見ではあるが、回答のしやすさや手軽さという点では、オンライン回答の方が心理的なハードルは低いと考えており、特に若い世代については回答率の向上につながる可能性があるのではないかなと思う。一方で、高齢の方については、返信用封筒も同封しているため、郵送で回答していただくことも可能であり、それぞれの方が回答しやすい方法を選択していただけるようにしている。
(委員)	今のお話を伺うと、前回同様に高齢の方からは一定数の回答を頂き、加えてオンライン回答によって若い世代の回答が増えることが期待できるのではないかなと思う。アンケートについては、何よりも多くの方に回答していただくことが重要であり、その結果として得られた意見をもとに、さまざまな分析や評価ができるものとする。せっかく実施するアンケートであるため、幅広い世代から多くの回答が得られるよう、引き続き工夫して取り組んでいただきたい。
(事務局)	前回のアンケートでは、1,181 件の回答のうち、Web による回答は 286 件であり、全体の送付数に対する Web 回答率は 11.4%であった。そのため、紙による回答の割合が比較的多い結果となった。今回についても、Web 回答と紙による回答のどちらかを選択できる形式としているため、紙での回答がしやすい方は紙で、Web での回答が簡単であると感じる方は Web で回答していただければよいと考えている。また、先ほど委員からご意見のあったパソコンでの回答については、前回のアンケートでも URL を記載して対応していたため、今回も対応可能かどうかを含めて検討したい。
(委員)	本日初めて参加させていただくため、これまでの議論を十分に把握できていない部分もあるが、私自身も行政側の立場で、これまでアンケートを実施する機会があった。アンケートの回収率を高めるために、抽選でプレゼントを用意したり、イベント等の機会を活用して回答を依頼したりする方法もある。しかし、そのような工夫を行ったとしても、実際に回答していただける方は、もともとその分野

	に関心を持っている方に偏りやすいという課題がある。これはアンケートにおける永遠の課題であると思うが、全く関心のない方から意見を頂くことは非常に難しい。興味のある方と興味のない方から同程度の割合で意見を集めるためには、街頭インタビューのように直接声をかけて意見を伺うような方法を取らなければ、実現は難しいのではないかと思います。そのため、今回のアンケートについて答えがあるわけではないが、さまざまな工夫をされている中で、紙によるアンケートだけではなく、例えばイベントを活用した意見収集や、街頭で無作為に声をかけて意見を集めるといった方法も、今後の取組として検討の余地があるのではないかと思います。今回のアンケートで必ずそのようにすべきという趣旨ではないが、一つの意見として受け止めていただければと思う。
(会長)	貴重なご意見ありがとうございます。今回はアンケートを実施するという流れで進めているが、決してアンケートを実施して終了というものではなく、その後の取組がより重要であると考えている。今後、どのような活動を展開していくべきかという点についても、今回頂いたようなご提案を参考にしながら、今後の取組に反映していただければと思う。引き続きよろしくお願いいたします。
(委員)	内容が少し遡るかもしれないが、対象者を無作為に 3,000 件抽出するという点について意見を述べたい。世の中の様々なアンケート結果を見る中で、「自分はそのように考えていない」と感じることも多くある。自分自身に聞かれていないため、どのような方法でアンケートを実施し、どのような人が選ばれたのか分からないというケースも多いように感じる。今回については、3,000 件を無作為に抽出する方法で問題ないと思うが、個人的な意見としては、広報等で「アンケートを実施しています。回答を希望される方は参加してください」といった形で広く周知し、希望者からも意見を募る方法があってもよいのではないかと思います。
(事務局)	この件については、できるだけ幅広く意見を把握するため、こちらで無作為に抽出し、地区や世代が偏らないよう配慮した上で対象者を選定している。興味のある方に手を挙げていただく形式にすると、どうしてもごみ問題への関心が高い方や、意識の高い方の回答が多く集まる傾向があり、結果に偏りが生じる一つの要因になるのではないかと考えている。そのため、今回のアンケートについては、より幅広い市民の意見を把握するという観点から、無作為抽出による方法を採用しており、この点については慎重に考えていきたい。
(会長)	今回については無作為抽出によるアンケートという形で実施しているが、決して今回限りで終わるものではないと思う。今後、別の機会に市民の意見を集める必要がある場合には、今回のような無作為抽出による方法に加え、意見を寄せたい方が参加できるような仕組みについても検討していくとよいのではないかと思います。

	う。さまざまな方法を組み合わせながら、より幅広い意見を把握できるよう取り組んでいただきたい。
(事務局)	さまざまなご意見を頂き、ありがとうございました。先ほどから多くのご意見を頂いた中で、修正すべき箇所や、改めて検討が必要な箇所が出てきたものと考えている。事務局から説明があったとおり、7月初旬にはアンケートを送付する予定であり、次回の審議会を開催して改めてご確認いただく時間的な余裕がない状況である。そのため、各委員から頂いたご意見について、可能な限り反映するとともに、反映が難しいものについてはその理由を整理した上で会長に説明し、了承を得た上で、修正については会長一任とする形で進めることについてお諮りしたい。
(会長)	ただいま事務局から提案があったとおり、修正内容については会長に一任する形で進めることについて、ご異議はないか。 (異議なし) それでは、責任を持って事務局と内容を確認し、対応していきたい。
(委員)	まず、事務局において、これまでの審議会でも出された意見を非常に丁寧に反映していただいたことに感謝申し上げる。また、委員の皆様が、それぞれの立場から「どうすればより良くなるか」という視点で、自分自身のこととして捉えながら意見を出していただいていることを大変ありがたく感じている。今回実施するアンケートの結果については、審議会としても今後の検討に活かしていく必要があると改めて感じたところである。なお、このアンケート結果については、今後、公表する予定があるのか、また何らかの形で活用していくのか伺いたい。
(事務局)	前回のアンケート結果も計画に掲載しているため、今回についても同様に、結果を取りまとめた上で計画等に反映し、公表していきたいと考えている。
(委員)	この依頼文については、先ほど他の委員から「手元に置いておきたい」との発言があったが、アンケートの中に解説を記載して送付すると、回答後にすべて返送されることになるため、現状のように分けたままの方がよいのではないかと思います。また、この解説資料は内容が非常によくまとまっているため、例えば市のホームページ等に掲載し、広く市民の方が閲覧できるようにしてはどうかと思う。そうすることで、加古川市がごみ問題についてどのように考えているのか、今後の方向性についても市民の方に感じていただけるのではないかと思います。今すぐ回答を求めるものではないが、今後、取扱いについて検討していただきたい。せっかくこのように分かりやすくまとめたいただいた資料であるため、3,000名の対象者だけにとどめてしまうのはもったいないように感じる。より多くの市民の方

	に見ていただけるよう、参考資料としてホームページ等への掲載について検討いただければと思う。
(会長)	以上をもって、本日の審議は終了としたい。議事の進行にご協力いただき、ありがとうございました。本日頂いたご意見等については、事務局において内容を整理・調整の上、対応をお願いしたい。それでは、以後の進行については事務局に引き継ぐこととする。 〔議事終了〕
(事務局)	5 その他 事務局より連絡事項 ＜事務局説明＞ 指定ごみ袋に関すること、集団回収奨励事業について報告
(事務局)	指定ごみ袋以外の袋による臨時的な収集対応について、また、市による資源物回収と団体による集団回収の実施日の周知・徹底、分別の徹底について報告した。これらの件について、何か質問や意見はあるか。
(委員)	指定ごみ袋についての臨時措置について、継続するかどうかについても、判断期限が 15 日ということであれば、既に一定の方向性は決まっているのではないかと思います。その辺りについて、現在の状況を伺いたい。
(事務局)	15 日に公表させていただきたいと考えている。現在の状況としては、指定ごみ袋が依然として店頭に並んでいない状況であることを確認している。そのため、今後の状況を踏まえるとともに、次の土曜日、日曜日にも市場調査を行う機会があるため、その結果も勘案した上で、15 日に継続の可否を決定し、ホームページ等で公表したいと考えている。
(委員)	集団回収についてであるが、市民の皆様が集団回収を実施することで、市による収集を減らすことができる、いわゆるコミュニティ回収のような考え方もあると思う。例えば、集団回収が定着した地域については、市の収集を中止することで、市の収集コストの削減につながる可能性もあるが、そのような取組まで進めることは難しいのか伺いたい。
(事務局)	地域によっては、集団回収を優先して実施している事例もある。しかしながら、近年、集団回収活動自体が低迷しており、特にコロナ禍以降、子ども会等の団体数が大きく減少している。また、活動の担い手である役員の負担も大きくなって

(事務局)	おり、団体数の減少に伴って、回収量についても年々減少している状況である。そのため、市としては集団回収を今後の収集体制の中心として考えるのではなく、地域の取組として実施していただくことは有意義であると考えつつ、奨励事業として位置付け、別の日に回収を実施していただいた場合に奨励金を交付するという形で進めている。 もともと、紙類や衣類については、集団回収を中心に実施していたと聞いている。現在手元にあるデータでは、平成8年度には360団体が集団回収を実施していたが、令和6年度には252団体となっており、約30%減少している状況である。特に少年団については、218団体から96団体へと大幅に減少している。また、町内会においても、担い手不足等もあるなか、やむを得ず実施しているというケースもある。このような状況から、すべての地域を集団回収のみで網羅することは難しい状況である。一方で、子どもたちが紙類や衣類を集めて回することは、ごみの分別や資源化に対する意識向上につながる取組であるため、集団回収については今後も継続していきたいと考えている。また、紙類や缶類などについては、集団回収団体にとって収入源となるが、市の資源物収集においても売却収入が得られる資源でもある。市の資源物収集に当たっては委託料や人件費等の経費が発生するものの、紙類、衣類、缶類については、それを上回る収入を得ている状況である。一方で、蛍光灯やライターなどについては、収集・処理に係る経費の方が大きいものの、市の責務として適正に分別・収集していく必要がある。今回、集団回収の日程と市の資源物回収の日程を分けていただくようお願いしている理由は、市が収集に伺った際に、対象となる資源物がすでに集団回収によって回収されていると、収集業者は回収作業を行っているにもかかわらず、売却収入を得ることができず、市としても委託料を支払うだけになるという状況が発生するためである。そのため、回収日を分けていただくことで、市の収集体制を効率化するとともに、市民の分別意識の向上にもつながるものと考えている。今後も、市による資源物回収と集団回収を並行して実施していきたいと考えている。
--------------	---